

# 議会だより

NO148

令和6年4月15日発行



## 3月定例会

予 算 議	小・中・高校の修繕料および備品購入費の内訳は	4P~8P
	霧高との意見交換会	9P
	委員会レポート (総務経済常任委員会)	10P
一 般 問	7人の議員が町政を問う	11P~17P
	「浜中学」を学んで (荒井 雷翔 さん)	18P
	「鳳舞」 (船山 乙葉 さん)	

令和5年度第3回浜中町共生型行事地活春まつりが3月23日に行われました。当日は、フリーマーケットや地活製品コーナーが出店され、訪れた多くの人で賑わいました。またスパーボールすくいのコナーなどあり、子ども達も笑顔いっぱい楽しんでいました。

表紙の写真

# 町の活性化に新たな事業を創設

## 商工業の振興と安定的な労働力確保に向け

**3月**  
**定例会**  
6日～13日

令和6年第1回定例会が3月6日から、8日間（休会2日含む）の日程で開かれました。町長から町政執行方針、教育長から教育行政執行方針が示され予算審議など活発な議論が展開されました。

今定例会には、令和5年度の補正予算をはじめ令和6年度当初予算および条例制定など32議案が上程され、いずれも原案どおり可決しました。

また、一般質問は7人の議員が登壇しました。

### 商工業の活性化を目指して

#### ○創業支援事業補助金制度

町内で起業を目指す人に対して、事業所の新築・改修および備品購入などの費用の一部を補助するもの。

・事業所の取得・増改築・改修など（土地購入費を除く）

・新築の場合は、事業費の50%上限500万円。

・中古物件は、事業費の50%上限200万円。

・改築改修は、事業費の50%上限200万円。

・賃借の場合は、賃料の100%上限月額5万円まで1年間まで。

・設備費、備品購入費などへは、取得価格10万円以上のもので50%上限200万円。

なお、同時に複数の利用が可能であり、コンテナハウスなどの店舗も対象となり得る。

・対象は町内外の個人・法人である。

#### ○小規模事業継続支援補助金制度

金制度

町内の小規模事業者が事業所・店舗などの増改築・改修や事業用備品の購入および広告宣伝を行なう費用の一部を補助するもの。いずれの場合も事業費の50%増改築は上限200万円まで。

・改修は上限100万円まで。住居部分や内装工事を伴わない電気・照明器具の取り換えなど、対象

とならない場合もある。

・事業用備品購入は上限100万円以上。リース契約品や中古品など、対象とならないものもある。

・宣伝広告費は上限30万円、ホームページの製作

など。

### 雇用の安定確保や経営の安定化に向けて

#### ○民間賃貸住宅等建設促進事業

各分野において慢性的な労働力不足であり、その一因が住環境にもある。住宅不足の解消と新たな雇用や移住定住の拡充を目指し、アパートや従業員宿舎を建設する町内外の法人・個人に対して建設費の一部を助成する。

・助成金額は、町内業者が施工する場合1㎡3万円

など。

なお両制度とも、商工会への加入や町内業者による施工などの対象要件があることから、詳細は役場商工観光課または商工会へ。

で上限1200万円。町外業者が施工する場合1㎡2万円で上限800万円である。

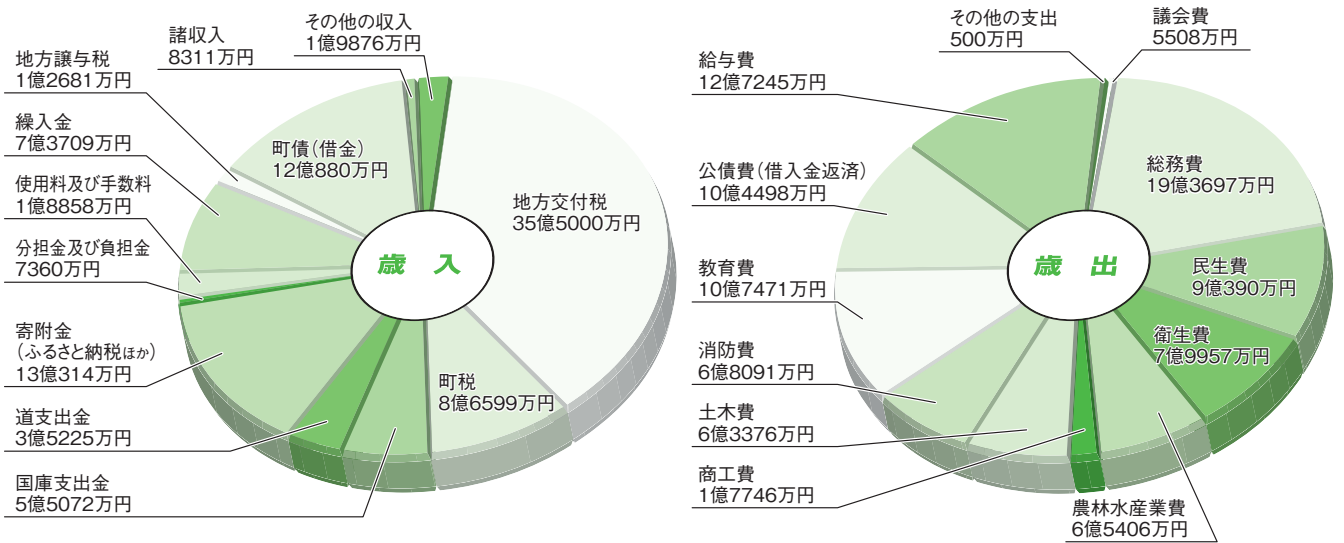
・両建物ごとに面積や給排水設備の設置などの要件があり、家賃低減に配慮（努力義務）するなどの交付条件があることから、詳細は役場建設課へ。

# 予算の概要

令和6年度 一般会計予算

総額92億3885万円に

## 一般会計予算の内訳



## 各会計の当初予算と前年対比

会計別	歳入歳出予算額		増減率(%)	一般会計からの繰出金			
	令和6年度	令和5年度					
一般会計	92億3885万円	92億6357万円	△ 0.3				
特別会計	国民健康保険	11億7523万円	11億8863万円	△ 1.1	5503万円 ←		
	後期高齢者医療	8378万円	7901万円	6.0	2506万円 ←		
	介護保険	5億670万円	4億9335万円	2.7	7475万円 ←		
	浜中診療所	3億514万円	3億4012万円	△ 10.3	1億9335万円 ←		
合計	113億970万円	113億6468万円	△ 0.5	3億4819万円 ←			
企業会計 (企業会計とは、民間企業と同じような経理を行う会計です。)							
	収入	支出	収入	支出	増減率(%)	一般会計からの補助金	
水道事業	収益的	1億9300万円	1億9300万円	1億9175万円	1億9175万円	0.7	
	資本的	3億8826万円	4億4557万円	2億8729万円	3億3188万円	34.3	4094万円 ←
※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額5731万円は、過年度分損益勘定留保資金で補てんする。							
下水道事業	収益的	3億9717万円	3億9717万円	4億521万円	4億521万円	△ 2.0	
	資本的	1億2422万円	2億1680万円	1億1032万円	2億856万円	4.0	2億304万円 ←
※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額9258万円は、当年度分損益勘定留保資金などで補てんする。							

# 予算審議から

## 小・中・高校の修繕料および 備品購入費の内訳は

**問** 小学校の修繕料230万円、備品購入費124万円。中学校の修繕料331万円、備品購入費45万円。高校の修繕料173万円、備品購入費49万円。それぞれの内訳は。

**答** 小学校修繕料は、校舎・教員住宅の修繕料として1校50万円の4校分200万円、GIGAスクール端末修理代5台分で30万円。備品購入費は、1校5万円の4校分20万円、浜中小のF

Fストロープ購入24万円、散布小のサーバー更新80万円。中学校修繕料は、小学校と同様に1校50万円の3校分150万円、GIGAスクール端末修理代3台分18万円、浜中中の体育館外壁改修97万円、浜中中・茶内中のネットワーク改修費66万円。備品購入費は、1校5万円の3校分15万円、霧中の移動可能なスピーカー購入30万円。

霧高修繕料は、作業用機器修理として10万円、校舎内外の補修として50万円、野球練習用ビニールハウス扉、ゴミ箱扉、バッテリー交換で13万円。備品購入費は、消防用ホース16本、学校管理職ポータブル記録用機器2台、大型扇風機10台、延長コードドラム2台で49万円。

## 文化センター改修工事進捗状況は

**問** 総合文化センター改修は、総事業費11億1793万円で2カ年にわたる大規模な改修工事を行い、6年度の5億387万円で完成となる。進捗状況と刷新される点は。

プ  
ン  
予  
定。  
改修前から大きく刷新される点は、図書室にエアコンが設置され高齢者も快適に本や新聞を読める場となり、親子でふれあう場所も広がる。

**答** 令和5年度は、屋上防水・外壁改修・サッシ・ガラスなどの外回りを終了。照明・給排水・受電設備・暖房配管などの工事を進め、令和6年7月上旬にはオー

1階ロビーのキッズコーナーは、木のおもちゃの充実や低学年用の高さ2mほどのボルダリングを設置。多目的トイレや授乳室も設置される。



一部が剥がれている浜中中学校体育館外壁

# A E D の 購 入 は

**問** 713万円で購入するAEDの設置施設は。また、操作方法の講習会開催の考えは。

**答** 今回の予算は、更新15台と新設5台およびトレイニングキット1台を購入する。新たに設置する施設は、熊牛コミセン、厚陽会館、



自治会で講習を受けている様子

## 地域みらい留学の内容は

奔幌戸ふれあい館、貫人会館、円朱別会館の5施設。また、使い方は消防署が実施する講習会への参加を呼びかける。

**問** 地域みらい留学事業負担金157万円は、霧高生の全国募集に向けた説明会などの経費であるが、内容と留学生の住まい確保は。

**答** 霧多布高等学校の入学者を広く募集するために一般財団法人

「地域教育未来化プラットフォーム」が展開している事業へ参加するもの。地方留学を希望する都市部の中学生と霧高生との交流を通じて、霧高や浜中町の魅力を伝え入学を考えてもらう。6月東京・7月大阪で開催される対面合同説明会へは、生徒2人と引率1人・高

## 詐欺電話への対策補助は

校事務長が参加するほか、オンラインでの学校説明会にも随時参加していく。6年度は、全国募集に向けた広報活動を実施するとともに、推薦枠を設けるなど入試要項の変更を道教委と協議して、令和7年度から留学生の受け入れを予定している。また、留学生の住まいについては、商工会や民宿・旅館と協議を進めており受け入れ体制を整えていく。

**問** 特殊詐欺対策としての新事業費5万円は電話機に関する補助であるが、内容は。

**答** 近年、電話などによる詐欺被害が大変深刻な状況である。その額は全国で200億円以上とも言われるが、大部分は電話から始まる詐欺の事例が顕著である。この現状に対し厚岸警察署から連絡があり町としても電話詐欺を未然に防ぐ対策として、電話機に係る設備の補助をするものである。例としては既存の電話機に装置を取り付け、相手側には録音される旨を通知し



気を付けよう特殊詐欺

## 「ゆうゆ」サウナ室の修繕は

**問** ふれあい交流・保養センター修繕料88万円の内訳は。

**答** 近年ブームとなっているドライサウナ室は全面木材仕様であり、木材の腐食が激しいことから全面張り替え71万円と湯上り用シャワールの補修2カ所17万円である。



改修される「ゆうゆ・ドライサウナ室」

## 昆布広告塔の改良とは

**問** 産業振興奨励補助の19万円の内容は。

**答** 浜中漁協が実施する琵琶瀬展望台と湯沸にある昆

布広告塔改修事業への補助で85万円。

G I登録のシール作成とウニ専用カゴ購入への補助で34万円。

## 通院交通費助成事業の内容は

**問** 特定疾患患者等通院交通費助成事業は、45人の利用者を見込み189万円の予算である。対象者および助成内容は。

**答** 本事業は、特定疾患患者や人工透析患者などに対し通院費の一部を助成する

もの。申請により、公共交通機関を利用した場合の金額を算定基準とし、算定額の3分の2を助成する。回数や金額に上限はなく、申請分は全て助成対象となる。

なお、タクシーを使用した場合の金額は算定基準とならない。

## 放課後児童クラブ備品の内容は

**問** 放課後児童クラブの備品購入費498万円の詳細は。

**答** 現在放課後児童クラブは霧多布、茶内の2カ所で開催しており、令和5年度より浜中・散布小学校に通う児童を霧多布放課後児童クラブへ移送していた。6年度は、浜中小学校の児童が8人、散布小学校の児童4人が児童クラブの利用を希望しており、移送用に10

人乗りワゴン車を445万円で購入する。なお、浜中小学校の児童は霧多布放課後児童クラブ、散布小学校の児童は茶内放課後児童クラブを利用する。移送業務は引き続き社会福祉協議会に委託する。

施設用備品購入費53万円については、霧多布放課後児童クラブにエアコンを購入設置するもの。昨年はポーターブルクーラーで対応したが、小学校普通教室にて

開所しているため手狭であった。安全上の配慮も含め、補助金を活用し設置する。今年の夏までに設置予定。

## 地域おこし協力隊増員の考えは

**問** 地域おこし協力隊起業等支援補助100万円の内容は。

また、現在の隊員は1人であり、募集もしていないが、増員の考えは。

**答** 協力隊員として2年以上務めた人が町内での起業や事業承継を行う準備に対する支援金で、財源は国の特別交付税措置を活用。

また、増員は、会計年度任用職員としての雇用型だけでなく産業振興や教育分野などへの委託型任用も視野に協議し、方向性が定まりしだいホームページで募集する。

## 物価高騰による保育所給食への影響は

**問** 保育所の賄い材料費1311万円は、昨年度より9万円の微増に留まったが、物価高騰の懸念は。  
また、完全給食実施に向けた検討は。

**答** 物価高騰の影響は不透明なのが現状。不足が生じた際は補正にて対応したい。

現在保育所では、0〜2歳は完全給食3歳以上は副食のみの提供とし主食は各家庭持参となっている。完全給食を実施している自治体もあるが、現状で主食に対する国の補助がないことや、調理員・調理設備、運搬面など検討が必要である。保護者の声を聴く場を設けるなど前向きに協議していきたい。

## 公の集会施設各費用の内訳は

**問** 公の集会施設の経費5571万円は、前年比約1700万円の増であるが主な内容は。

**答** 修繕料391万円の主なものは、浜中・姉別両改善センターの非常灯改修に147万円。

その他4施設の外灯・換気扇・トップライトガラスの補修に174万円と予備費70万円である。建替工事実施設計委託料880万円は「湯沸母と子の家」の改築と解体に係るもので改築に關しては、工場完成品のユニットを数台組み合わせる工法（ムービングハウス）

で、在来工法より費用が3割ほど削減できる。改修工事費1470万円は、茶内コミセン多目的ホ

ール照明のLED化に550万円。共和会館の屋根塗装・一部葺き替えと外壁塗装で920万円。

解体工事費1千万円は、茶内第三「寿の家」の解体処分に係るものである。

## 不妊治療や予防接種 助成事業の内容は

**問** 不妊治療交通費助成33万円とおたふく風邪ワクチン接種料助成54万円は、新規の助成事業である。不妊治療と予防接種への支援体制と周知方法は。

**答** 不妊治療は、昨年度から治療費の自己負担分を町が負担して無償化を実施しているが、さらなる支援として札幌や釧路までの交通費を道の基準に準じて3分の2を助成する。治療者への個別周知のほかホームページ・広報誌で周知を図る。

ワクチンは、インフルエンザ・4種混合・2種混合・ヒブ感染症・肺炎球菌・日本脳炎、子宮頸がんなど。今年度から、おたふく風邪ワクチン（1歳と6歳）を全額助成で実施する。対象者への周知は、町広報のほか乳幼児健診や育児相談の機会および母子手帳アプリの活用を考えている。

予防接種は、乳幼児・幼児・児童生徒・20歳未満と65歳以上の高齢者が受ける各種ワクチン接種が助成対象で、それぞれで全額助成か一部助成のものがある。主な

ワクチン接種は、浜中診療所のほか町が委託契約している医療機関で接種できるが、その他の医療機関で接種した場合は、全額を支払った後に町へ申請することで助成を受けられる。なお、ワクチン接種には、在庫確認の意味から医療機関への予約が基本となる。



導入予定のムービングハウス

## 町道補修工事の内訳は



道路工事の様子

**問** 町道維持補修工事  
1億2540万円の内訳と工期は。

**答** 霧多布2条通局部改良工事はオーバレイで継続事業。工期は令和6年5月上旬～8月下旬予定。事業費1280万円。

琵琶瀬西岡道路局部改良工事はオーバレイで継続事業。工期は令和6年9月上旬～10月下旬予定。事業費380万円。  
浜中桜2号通局部改良工事はオーバレイおよび側溝の傾き改良。工期は令和

6年7月上旬～10月下旬予定。事業費1050万円。

新川1号道路側溝補修工事は令和6年9月上旬～11月下旬予定。事業費1030万円。

茶内通学路排水改修工事は令和6年5月上旬～8月下旬予定。事業費2200万円。

万世橋長寿命化補修工事は令和6年6月中旬～令和7年1月下旬予定。事業費6600万円。

## 社会福祉協議会移転に

### 向けての展望は

**問** 工事請負費1930万円は、社会福祉協議会移転に伴う旧琵琶瀬小学校の改修費用であるが、発注や工期、移転時期は。

**答** 現在、社会福祉協議会が所在している老人福祉・母子健康センターは耐震基準を満たしていない。安全を考慮し早期移転が必要であり、旧琵琶瀬小学校への移転を決定した。これによ

って対象となるのは、社会福祉協議会事務所のほか各事業を担っている浜中居宅介護支援センター「あやめ」、しやきよう介護センター「えぞふうろ」、厚岸地域浜中訪問看護ステーション。移転先である旧琵琶瀬小学校は、既にNPO法人霧多布湿原ナショナルトラストが使用しているが関連

機関の移転について協議済みである。6年度に入札、8月までに工事完成、9月に施設移転を予定している。なお、高齢者事業団は、茶内トレーニングセンターへの移転を予定している。



旧琵琶瀬小学校外観

## その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
丸山散布津波避難施設整備工事	2億2061万円
茶内団地個別改善工事(S63)	1億9500万円
水道メーター器設置工事	4294万円



## 条例の制定を議決

### □ 浜中町企業版ふるさと納税基金条例

企業版ふるさと納税は、企業が寄附を行った場合、法人関係税の税額控除を受けることができる。新たに「浜中町企業版ふるさと納税基金」を創設し、寄附金の有効活用と円滑な制度運営を図る。柔軟な活用が可能となるよう基金の管理、処分、繰替運用などを規定する。

### □ 浜中町景観条例

近年、再生可能エネルギー発電施設などの建設が進んでいるが自然環境、自然景観を守るといふ点から景観づくりに関する必要事項を定める。景観法の規定に基づいて、景観づくりに関す

る総合的な計画である「景観計画」の策定や「景観形成重点区域」の指定などを規定する。

## 補正予算を議決

一般会計は、年度末における事業費の確定に伴う減額や除雪費の追加などで予算総額を97億5304万円とした。

### ◎ 特別会計

- ・ 国民健康保険特別会計
- ・ 後期高齢者医療特別会計
- ・ 介護保険特別会計
- ・ 浜中診療所特別会計

### ◎ 企業会計

- ・ 水道事業会計
- ・ 下水道事業会計
- ・ 特別会計、企業会計とも令和5年度実績見込みに基づく補正。

## 霧多布高等学校1年生と意見交換会を実施

2月15日、浜中町役場にて霧多布高等学校1年生17人と浜中町議会議員による意見交換会を実施しました。当日は議場見学後、会議室に移動し、5つのテーマに分かれ意見交換を行いました。

テーマ①「教育」

テーマ②「浜中をどうPRするか」

テーマ③「人口減少を止めるには」

テーマ④「不足している施設」

テーマ⑤「防災・津波対策はどうするか」

浜中町議会では、意見交換をする団体・グループを随時募集しています。意見交換会を希望する場合は、議会事務局までお申し込みください。

### 申し込み先

浜中町議会事務局

TEL..62-2265

FAX..62-2116



議会事務局長に舟橋正誉氏が就任いたしました。

(4月1日付)



霧高生との意見交換会の様子

# 委員会レポート

## 総務経済 常任委員会

### 3つの所管事務調査を実施

町の財政状況の調査、商工会役員との意見交換、津波避難対策緊急事業計画の現地踏査を実施し、3月定例会で報告。

#### ○財政状況の調査

##### ◆調査の概要

財政運営の指標となる財政力指数をメインに役場新庁舎の新築など大型事業の実施に伴い、実質公債費比率への影響と将来見通しについて調査した。

##### ◆調査意見

本町の財政状況は、令和3年度に行った調査では安定した財政運営が可能とのことであったが、令和4年度の地方債元利償還額は13億4900万円。令和7年度以降は増加する見通しで、令和11年度の償還額は17億5100万円と見込まれている。

今後の大型事業の展開は、交付税措置がある利な地方債の活用によらなければ、経常収支比率の増高を招く恐れがあり、財政の弾力性が無くなること

配である。

また、健全な財政運営を維持していくには、場合によっては、総合計画の実施計画事業のローリングなどで調整を図り、これまで以上に事業施策等の重要性や緊急性を勘案して実施事業の厳選とともに経常経費の見直しも再考すべき課題と思われる。

#### ○商工業の振興対策調査

##### ◆調査の概要

商工会役員との意見交換会を行い、町内の商工業の現状を共有し、その課題解決に向けた商工会としての意見や提案を聴取し、実現可能な事業を行政施策に反映すべく調査した。

##### ◆調査意見

商工会役員との意見交換会は、令和元年度以来2度目の取り組みであり、前回調査から前進した事業は、

高速通信網（光回線）の全町整備や地域おこし協力隊の活躍などであるが、商工会が抱える課題は、観光客をたくさん呼び込んで町を盛り上げていこうという考えと今の町をどうやって維持し、不便さのない町を続けていくかという大きな課題がある。その状況は今も続いており、さらに深刻度を増している。

商工会役員の意見は、既存事業者に対する町の補助を得て、いかに商工業者を存続させていくか、新規事業者には何らかの形で出店しやすい方策を講じていくかといった喫緊の課題が多く当委員会では早急にこの大きな課題に対応していく必要があると考える。

今後は、この意見交換会で論じられたさまざまな課題を共有しながら、テーマを絞り引き続き調査を継続していくことを確認した。

#### ○津波避難対策緊急事業計画の現地踏査

##### ◆調査の概要

津波避難対策緊急事業5カ年計画に基づき、本年度

実施された津波救命艇整備事業、霧多布高等学校避難施設整備事業、丸山散布人工高台整備事業の概要聴取と進捗状況および現地踏査を実施した。

##### ◆調査意見

千島海溝沿いを震源とする巨大地震に伴う津波対策として、改正特措法による「津波避難対策特別強化地域」に本町は指定された。この指定を受け、令和5年3月に国の承認を得て、「津波避難対策緊急事業5カ年計画」を策定。令和5年度から令和9年度までの期間内で避難困難地域6地区の防災対策事業の完全実施が期待されている。

本年度は、現地踏査した3事業に加え、避難タワー建設予定地4カ所の測量や地質調査基本設計（ボーリング調査）も行われており、施設整備に係る財源対策も含め、着実に実施されるよう緊急事業計画の推進に係る調査意見とする。

# 一般質問

川村 義春 議員



問

商工業者への新たな支援制度の概要は

答

商工業の振興や活性化を図るための制度

**川村** 商工業の振興策として新たに創設された「創業支援事業補助制度」・「小規模事業継続支援補助制度」と「民間賃貸住宅等建設促進事業」の制度の概要は、

**町長**

①「創業支援事業補助制度」は、本町の商工業の振興や活性化を図るため町内起業者に、その費用の一部を支援する。制度内容は、新たに事業所を新築や

中古物件を購入し、増改築などする場合で、新築は、補助限度額500万円、総事業費に対する2分の1。中古物件の購入は、補助率は同様で200万円が補助限度額。増改築改修などは補助率2分の1で、補助限度額は200万円。

②「小規模事業継続支援補助制度」は、事業者が既存店舗などの増改築、改修および備品などを購入した場合に支援する。制度内容の増改築と改築は、共に2分の1の補助率で、補助限度額200万円。改修費は、補助率同様で、補助限度額100万円。

③「民間賃貸住宅等建設促進事業制度」の目的は、町内事業者の安定的雇用を環境面で支えること。町内に民間賃貸住宅や従業員の住居を建設する法人・個人に費用の一部を助成。制度内容は、町内に民間賃貸住宅や従業員宿舎などを建設するとき、町内業者による施工は1㎡当たり3万円、最大400㎡1200万円まで。町外業者による施工は、

1㎡当たり2万円、最大400㎡800万円まで。

**問** 魅力ある自然・産業の景観計画策定は

**答** 景観条例は4月に景観計画は6月施行

**川村** 町の産業を守り育てる魅力ある景観計画は、浜中町景観条例を基本に策定されるが景観行政団体への移行は3月1日に告示されている。6月から施行の景観計画を定める前に町民から意見を求めるパブリックコメントの実施は。

**町長** 景観法第9条に、住民の意見を反映させる措置を講じる規定があるので、4月中に実施し、景観審議会に諮りたい。

**川村** 再生可能エネルギー



自然と産業活動がマッチングしている地域

の設置に関する条例と規則禁止区域などの見直しは。

**町長** 施設設置周辺関係者への説明範囲拡大を加えた条例改正を6月定例会に上程。規則の禁止区域に「鳥獣保護区やラムサール条約登録湿地」の追加を検討。

# 一般質問

三膳 時子 議員



**三膳** 高齢者バス等利用助成事業増額後の利用状況は。

**町長** 高齢者バス等助成事業については、高齢者の積極的な社会参加、外出機会の促進および健康の維持促進を図り、生きがいのある生活を援助することを目的に平成7年度より実施した事業。昨年度より助成額5千円から1万円に増額して交付。増額後の利用率比較

## 問 都市間バス利用の 利便性向上を

## 答 関係事業者と協議し 前向きに検討する

ではバス券利用36%でほぼ前年度並である。

**三膳** 都市間バスの運行も助成の対象としているか。

**町長** 釧路根室間の都市間バス通称「特急ねむろ号」は現在、平日3往復、土日祝日は2往復が二つの民間事業者によって運行されている。当路線は、沿線自治体（本町、釧路市、釧路町、根室市）の補助金と国の地域幹線系統補助金で運行。本町の6年度の負担金は1291万円。

**三膳** 今後補助金の増額の可能性はあるか。

**町長** 本年10月以降、法改正に基づき、1日の輸送量が15人以上の乗車が条件となった。もし条件が満たされない場合、民間事業者が国からの補助が受けられない。今後同じ運行を継続とすれば、沿線自治体の負担が大きいものと考ええる。

**三膳** 1日15人というのは、本町の利用人数か。

また、満たされなければ、この都市間バスの運行中止もあり得るか。

**町長** 平均輸送量なので、

沿線自治体での人数となる。

また、運行の中止は、二つの民間事業者が運行している路線なので、採算性に関する課題。現在、沿線自治体、民間事業者、振興局、運輸局が事務的協議を継続中。

**三膳** 難しい課題もある中だが、都市間バスの待合所の設置は考えられないか。

**町長** 国道沿線において、新規待合所を設置するのは

民間事業者側での対応となる。本町独自の待合所設置は今の段階では難しい。

**三膳** 高齢者バス等助成事業のバス券が都市間バスでも使用できないか。

**町長** 二つの民間事業者共同運行による特殊な形態。釧路バス運行区域外となっているため、現在のバス券は対象外となっている。今後、事務的協議の場面前向きに取り組んでいく。



特急ねむろ号のバス停標識と時刻表

# 一般質問

渡邊 秀治 議員



問

## 身体障がい者の 医療施設への送迎は

答

## 町内でのみの送迎サービス となっている

**渡邊** 浜中町立診療所では対応できない人工透析患者を社会福祉協議会を通じて、医療技術を備えている町立厚岸病院への送迎を行っている。

一方、重度の障がいを持ち車椅子を利用して他の市町への送迎サービスはあるか。

**町長** 町外の医療機関への送迎は移動範囲が広く、サ

ービス対応時間の制約があり人員の確保も難しいので町内でのみの送迎サービスとなっている。



民間業者による介護タクシー

**渡邊** 透析患者に対する町外への送迎サービスがある一方で車椅子利用の人へは無理というのは不公平では。

**町長** 実情としては民間の介護タクシーや福祉タクシーを利用されていると思う。費用が多額になるので事業者の在る自治体では回数券などで助成しているところもあるが、浜中町にはないのでそういった行政サービスの制度設計の必要がある。

**渡邊** 昨今、ヤングケアラーやビジネスケアラーといった人々の問題が表面化している。この送迎問題もそれらと共通していると思う。町長の町政執行方針の中に「障がい者がそれぞれの地域で安全安心な生活が確保されるよう外出支援をしています」とある。

こういった点を踏まえ移動手段の確保や福祉タクシー料金への助成を検討すべきでは。

**町長** 地域包括支援センターなどで要介護者や家族のニーズにしっかり対応していく。

介護タクシーや福祉タクシー料金への助成制度の実現を検討していく。

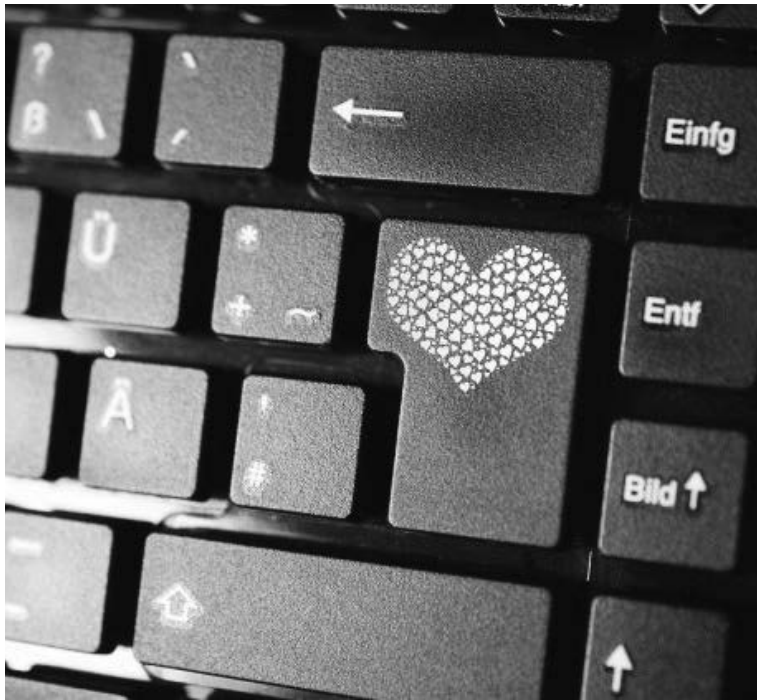
# 一般質問

田甫 哲朗 議員



**問** 行政施策としてAI婚活を

**答** 調査・検討を年度内に



AI婚活のイメージ写真

**田甫** 令和2年に示した10年後の目標人口4857人の見直しは。

**町長** 人口減少に歯止めが効かず、難しい状況である。

**田甫** 出生数の推移は。

**町長** 令和元年までは平均44人位で推移していたが、令和4年までの3カ年平均は30人となっている。

**田甫** 婚姻数の推移は。

**町長** 平成23～28年まで

は、平均25組であったが、その後6年間の平均は15組となっている。

**田甫** これまでの施策の中で人口減対策に効果的と思われる事業は。

**町長** 産業施策では、後継者就業交付金事業や各種産業振興事業。福祉面では、子ども医療費の無料化や福祉職・看護師等就学資金貸付制度、不妊治療費・交通費の助成制度。教育面では、

保育所から高校までの給食費無料化や修学旅行費の助成事業などが挙げられる。

**田甫** 産業後継者対策や子育て支援などを充実させてきた。出生数の減少幅が大きくなった要因は。

**町長** 未婚化・晩婚化の進展と思うが、若い世代の結婚・出産への意識の変化や育児に対する負担感など複数の要因が考えられる。  
**田甫** 第2期創生総合戦略

の基本目標には「若い世代が希望を持って結婚・出産・子育てができる環境を構築する」と謳っている。出産・子育て支援は拡充されてきたが、結婚への支援策は「農業後継者対策推進協議会（後対協）」への補助だけである。後対協の現状と今後の取り組みは。

**町長** 後対協への登録者の年代は、20代から40代半ばと幅広く結婚への温度差もあり各種イベントへの参加率が減少している。

こうした状況を踏まえ、出会いの機会を増やすため従前の対策に加え、AIを活用した婚活システム「アグリマッチ」への登録推奨を図っている。

**田甫** 後継者就業交付金事業を活用し、志を持った若い後継者が育ちつつある今こそ、職業に捉われない婚活支援を進めるべきでは。国も地方自治体がAI婚活システムを導入する費用に対し補助制度を創設している。実施する考えは。

**町長** 調査・検討し年度内に結論を示したい。

# 一般質問

国井 葵 議員



## 問 わが町の医療課題とその解決策は

## 答 町民の声を聴き各機関との連携を図る

**国井** 現在、診療所の常勤医は2名。受診者数は。  
**町長** 令和5年度1月末現在で延べ9794人。そのうち195人が小児である。  
**国井** 小児の受診割合が低い。浜中診療所では小児科の標榜を掲げている。受け入れ可能な年齢や症状は。また、北大医師派遣日、土日や夜間の受け入れ体制は。  
**町長** 小児診療には専門医

による迅速な判断、採血・点滴などの熟練された経験技術が必要のため、3歳未満の診察は行っていない。問い合わせの際は症状を聴取し専門医へ受診をお願いしている。予防接種は可能。3歳以上の診察は、平日通常時であれば主訴<sup>しよ</sup>によって断ることはない。風邪症状、外科的処置、予防接種などは他医療機関と変わらずに受け入れ可能。新型コロナウイルス発生以降、小児に限らず受診時に検査を行っているが、北大医師派遣日や土日・夜間はこの検査が実施できないことに加え、薬局も定休日となるため受け入れはできない。  
**国井** 診療所の診療時間や入院、診療科目についての客観的な情報に加え、行政サービスなどの関連事項を町ホームページ並びに町広報で常時提示できないか。  
**町長** 情報の発信不足を認識している。診療科目、診療時間、関連事項を表記し改善を図りたい。  
**国井** 医療従事者や行政職員<sup>しん</sup>の労働環境が重要と考え

る。取り組みや課題は。  
**町長** 医師以外の医療従事者が不足している。今後も環境づくりに取り組む。  
**国井** わが町は近隣市町村に医療協力を頼らざるを得ないが、受診は決して容易ではない。行政は実態を把握しているか。また、この課題について現状の行政支援や解決方法は。  
**町長** 町民からさまざまな声<sup>こゑ</sup>が寄せられている。介護、医療が充実していなければ終の棲家にもなり得ない。釧路医療域での医療体制づくりに取り組んでいく。2名の常勤医師も、町民に寄り添う思いを持って。町民の皆様の



医師2人体制になった浜中診療所

健康を十分守っていききたい。  
**国井** 行政主導で町民の声を直接聞く機会を設けては。  
**町長** 要望があればコミュニケーションの場に進んで出向きたいと考えている。

# 一般質問

渡部 貴士 議員



**渡部** 町長が目指すまちづくりとは。

**町長** まちづくりの基本は、基幹産業である酪農・漁業を守り抜くことである。その一次産業を守り抜く上で一番大切なのは、世界に誇れる霧多布湿原を始めとする豊かな自然環境の保全が最も重要である。本町で暮らす人や訪れる人など、誰もが夢を持って幸せを感じ

**問**

## 町長が描く 浜中町のビジョンは

**答**

## ワイナリーから 道の駅構想へ

ることができるとは、まちづくりをしていききたい。新たな施策である3つの支援制度が起爆剤となつて、町内経済の活性化と商工業者の経営の持続により、安定的な雇用の確保や企業誘致につなげていきたい。また、冬期間の誘客で通年観光ができるような町にすることや、本町で地場産品を食べられるようにすることが、これからの浜中町に求められているのだと考え、観光が一次産業の支えとなるよう期待をしている。

将来のビジョンとしては選挙公約で掲げた企業誘致によるブドウの栽培を6年度からでも行いたい。賛否は



東京都で開催された「浜中ワーケーションステイ」報告会

**答**

増員を考えている

**問**

協力隊の  
募集予定は

あるが、まずは第一歩を踏み出さなければ浜中町の将来はないと考えている。ワイナリーが完成して、ワインが手元に届いた際には、それを元として道の駅構想が再燃してくるとの思いもある。

**渡部** 地域おこし協力隊の委託型募集の考えは。また、12月に実施された「浜中ワーケーションステイ」の事業内容と発展の可能性をどう考えるか。

**町長** 当町で今までに採用した二人の協力隊員は雇用型の会計年度職員タイプであるが、委託型は副業が許される特別職非常勤職員とされ個人事業主を採用することもできるので検討したい。

また、ワーケーションステイは経済産業省の委託を受けて(株)地方創生推進協同機構が実施をした補助事業で、個人事業主などの15人が4泊5日で町内に滞在をした。漁業や酪農の就業体験で町民との交流を深め、浜中町に対しての事業提案の場も設けられた。1月に東京で開催された報告会にも出席したが、事業の参加者からは「過疎地方再生のモデルケース」となるべく熱意を感じた。当初予算としてはしていないが継続事業として進めていきたいと考えている。



# 一般質問

谷村 敦 議員



問

## 高齢者世帯への住宅用火災警報器購入助成を

答

## 他町村の情報を収集して検討したい

**谷村** 消防庁からの令和4年中のデータによると、建物火災による死者の9割が住宅火災で亡くなっている。このうち65歳以上の高齢者が7割を超え、さらなる高齢化率の上昇を考えるとその増加が懸念される。住宅用火災警報器設置の促進と耐用年数の周知などどのようなに行われているか。

**町長** 濱中消防署が2カ月ごとに発行し、自治会配布をしている消防だよりにおいてほぼ毎回の周知を行っている。

**谷村** 住宅用火災警報器の寿命は概ね10年である。高齢者世帯では機器更新の取り付けや費用が負担となるために設置や更新が進んでいないことも予想されるがどのような認識か。

別訪問での設置指導や、高齢者世帯では連絡をいただければ取り付けも行っている。経済的な負担が普及を妨げる原因の一つとして考えられるが、手厚い活動で補っていききたい。

**谷村** 高齢者世帯への新規設置および更新に伴う助成金制度は、町民の命と財産を守る有効な手段と捉えるが町としての考えは。



対策が必要な廃船

**町長** 防災に力を注ぐ浜中町として、今後も消防が主体となり町と連携して、火災警報器設置率100%を目指し購入助成も検討していきたい。

**問** 霧多布港上架施設における廃船の危険性は  
**答** 港湾管理者として  
浜中漁協とさらなる協議を

**谷村** 港湾施設内に長年において放置されている半壊状態の廃船を、景観および環境の面から町としてのどのように捉えているか。

**町長** 景観は好ましくないと認識している。港湾用地の敷地内なので環境面については最低限守られている。

**谷村** 何も進展しないまま年月を重ねている事態とみるが、漁協側との協議など解決に向けた方策は。

**町長** 今後、浜中漁協と協議を進め廃船を増やさないために、組合員を脱退される人には所有船舶の今後について確認し、処分を希望する人については処分業者を紹介している。

# 鳳舞

## 「浜中学」を学んで

霧多布高等学校1年A組

荒井 雷翔らいと

私たちの通う霧多布高校で学ぶ浜中学では、1年生で浜中町を知ること、に重きを置いて学んできました。そんな浜中学を1年間学び、私はより深く浜中町を知ることができたと感じています。浜中学では、浜中町のいいところを出し合ったりすることをはじめ、浜中町の食材などを生かしたピザを作り、浜中町の議

員の方々と意見交換したりするなど、とても貴重な体験をすることができました。このような体験を経験し、浜中町の地域活性化に必要なことはどのようなことかを、1年生全員でよく考えることができたと思います。こうして自分の住む地域について知ることができ、学習があるというのは、私たちに新しい気づきを与えることができると思っています。そのため、私は浜中学というのとはとても良い授業だと思っています。

また、議員の方々と交流することで今まで「なぜ、こうしないのだろう」「なぜ、これがないのだろう」などの疑問を解決するきっかけにもなったと感じました。それだけではなく、浜中町の食材を生かしたピザづくりではそれぞれの班に分かれ生徒一人ひとりがアイデアを出し、とても個性的なピザを作ることができました。この浜中学を1年間振り返ってみて浜中町をよく知ることができ、とても楽しむことができました。6年度、私たちが2年生になると浜中学のテーマは浜中町を調べるという段階に進みます。時に難しい問題にあたることもありませんが、私はこの浜中学を通じて、自身に情報発信力や課題対応能力など様々な力をつけていこうと思います。

### 揮毫

1年A組

### 読み方

船山乙葉ふねのさん

### 意味

鳳凰が舞う。天下泰平の象徴。



## 町のトピックス

霧多布保育所ひなまつり会

3月1日撮影

3月1日、霧多布保育所にてひなまつり会が行われました。当日は、ひなまつりの由来をパネルシアターで鑑賞し、笑顔いっぱい楽しい時間を過ごしました。



### 町のトピックス (話題) を募集します!

この欄に掲載するまちの季節の写真をお寄せください。次回の発行は令和6年7月15日です。

ご応募はこちらへ 浜中町議会事務局 E-mail: gikai@town.hamanaka.lg.jp TEL: 62-2265